

## 1、幼稚園の教育目標

緑深い木々と、広い運動場、整った設備の中でいきいきとした心身の健康と体力増進を中心とし、ひとりひとりの個性を大切に、諸能力を十分に発達させ、情操を豊かにし、人間形成の基礎を確立することを目標とする。

## 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼児教育要領について理解を深め、職員一人ひとりが丁寧に子どもと向きあい、各年齢に応じたカリキュラムの作成を行う。また子ども達が主体となる保育が行えるよう保育内容の見直しを図り、子ども達自ら行動することができる環境構成・幼児理解を深める。

## 3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
幼稚園の教育課程の編成・実施や目標に基づいての計画性や保育教育のあり方	B	保育の計画性については遊具や玩具に危険がないか日々確認を行い、子ども達が主体的に活動できる環境を設定する。各学年子どもの成長に合わせた週案を作成し、早い段階で取り組むことができた。またその年の子どもの発達にあった活動ができるよう保育内容を考えた。
具体的な保育の在り方、幼児への対応や保育内容の教職員の共通理解	A	日々の保育の中で子ども一人ひとりをよく観察し理解を深めると共に、子どもに寄り添った言葉かけや援助を行い、活動が楽しいと感じることができるように毎日の保育を行った。またコーナー遊びを取り入れ、子ども達自身が自ら遊びを選択したり、話し合いの場を設けることで、一つの題材からたくさんのイメージを膨らませ遊ぶことができた。保育者は子どもの興味・関心に合わせた環境構成を行い、必要だと感じる廃材・教具を準備し子どもの遊びが広げられるようにした。
教師としての資質や能力 教職員間の相互理解	A	子ども一人一人に寄り添った保育を心掛け、気になる子どもやクラス活動において不安と感じることがあると他の教諭に相談しながら保育を進めることができた。反面、学年ごとにおける会議や連絡事項など横の連携はしっかり行う事ができたが、異年齢における縦の連携に弱さを感じる事があった為、次年度に向けて今以上に職員間の相互理解を深められるように改善を行う。
保護者への対応	A	園での子どもの様子や成長を細かく保護者に伝えることができた。また、家庭での様子や、保護者との関わりの様子を詳しく聞くことにより子ども理解を深め、保護者との情報共有を行なう事ができた。連絡アプリを活用することで、緊急の連絡等にも迅速に対応することができた。
地域とのかかわり	C	コロナ禍が緩和されたこともあり、感染症対策に気をつけながら、地域の方も参加できるバザーの開催を行うことができた。小学校との交流は今年度も難しく関わりを持つことができなかった。

研修の取り組みについて	B	新任研修を含め教職員全員が意欲的に研修に参加することができた。コロナ禍が緩和されたこともあり、オンラインの研修から対面での研修に参加することができた。研修で学んだことを会議にて発表し、保育活動では学んだことを取り組み実践することができた。今後も積極的に研修に参加していきたい。
安全面に配慮した環境づくりと地域の自然や社会との関わりや取り組み	A	防犯、防災、防火訓練においては研修を受け、その中でも特に防犯訓練では警察官主導の下、訓練を行なうことができた。毎回訓練後に会議・反省を行なう事で教職員間においても危機管理意識を高められる結果となった。引き続き取り組んでいく。また、日々の安全点検・確認を怠らず気になる箇所を見つけた時は迅速な対応で危険を回避することができている。

◎評価結果の表示方法

- A 十分達成されている    B 達成されている    C 取り組まれているが、成果が十分でない  
D 取り組みが不十分である

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理 由
B	子ども達が主体的に活動できるよう保育の見直しを図り、保育者はどのような関わりをするべきか一年を通して職員間で話し合い実践することができた。また、体育遊びでは子どもの発達に合わせた運動カリキュラムや、達成感が持てるよう頑張り表を作成するなど工夫を行った。戸外・室内を問わず、子ども達が主体となり活動し子ども同士の関わりを深められるよう保育者は援助・見守りを行った結果、他児を思いやる子ども達の姿がたくさん見られた。保育内容によってはまだまだ保育者主体となり得る活動もある為、次年度に向けて内容の振り返りを行い課題に沿って取り組んでいきたい。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 組 方 法
子どもとのかかわり。環境構成について	子ども達をよく観察し、今何に興味・関心を持っているのか見極め、一人一人の発達に沿った保育がおこなえるようにする。また保育者自身が柔軟な考えを持ち、子どもと視点を合わせ、子ども達自ら遊びを作り出すような保育環境を考える。
運動遊びの取り組みについて	子ども達が楽しく運動遊びに参加できるように各学年ごと、発達に応じた運動カリキュラムを作成する。また異年齢との関わりを持てる運動遊びや集団遊びを取り入れる中で仲間意識を持つと共に自己達成感も感じ取れるような運動遊びを考える。
環境構成の取り組み	遊びや活動のイメージが膨らむような声掛けをしたり、みんなで相談し合える場を作る。また、子ども達自身で遊びを選択できるコーナー遊びの充実を図ると共に、教材や廃材も自由に使い遊び込めるような環境を作る。
地域社会・研修について	地域社会の環境や、園周辺の施設の理解を深める。また、地域交流について職員間で話し合い子ども達と地域の方とのふれあいの場が持てるような活動も考えていきたい。研修についてはコロナ禍もありオンライン研修が多かったところ、対面での研修を受けることが可能となってきているので意欲的に参加し、教職員間で共有し保育の学びを深める。

## 6、学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められている。

## 7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。